

日本語の速読力を高めるためのスキニングを使用した授業活動

ロードティアン ジュティポーン

NIDA 言語コミュニケーション研究科修士課程

本研究の目的は、1) 高校生の日本語学習者の速読力を向上させるための指導方法を探求することである。特に、情報検索を重視したスキニング技法「QUICK 5 Step」を活用し、読解速度と効率の向上を目指す。また、2) 学習者の読解に対する動機づけを高め、不安感を軽減することも目的としている。本研究では、スキニング技法を体系的に取り入れた授業活動を設計し、授業内での実践を通じてその効果を検証した。

調査対象は、日本語の読解において初級レベルの高校生である。研究では、事前テスト、事後テスト、および授業後のアンケート調査を実施し、データを収集した。

研究の結果、スキニング技法を用いた授業活動は、学習者の速読力の向上に有意な効果をもたらしたことが明らかになった。対象者の 94.44% が事前テストから事後テストにかけて得点が向上し、83.33% がテストの解答時間を短縮した。この結果は、学習者の読解スピードと正確性が向上したことを示している。さらに、多くの学習者が本手法により文章内容をよりよく理解し、重要な情報を迅速に特定できるようになったと報告している。また、読解に対する自信が向上し、日常生活においても応用可能であると感じたことが示された。加えて、アンケート分析の結果、学習者の日本語読解への動機づけが大幅に向上し、読解に対する肯定的な態度が促進されたことが明らかになった。不安感の軽減も確認され、それにより高度な読解力の発展につながる可能性が示唆された。

キーワード：スキニング、速読、日本語、動機